



同じおもちゃを二つ買う？

双子の親が頭を痛める事の一つとして、常に同じものを二つ買うかどうかということがあります。子供というものはどういうわけか、人の持っているものを欲しがります。大して好きでもないものでも誰かが持っているというだけで欲しくなってしまうものです。それがいつも傍にいる双子の相棒が持っているものならなおさらです。

しかしいつも子供に要求に答えてばかりいるわけにはいきません。子供との信頼関係を保ち彼らの欲求を満たしつつ、我慢することや譲り合うことを学ばせたいものです。ツインマザーはこの問題をどう対処していけば良いのでしょうか。

二人で使えるおもちゃはルールを知る良い機会

大きな物や高価な物は、二つ買うことはためらわれます。全てのおもちゃを二人の共同のものにするわけにはいきませんが、積木やブロックなど、二人で一緒に使えるものを与えるというのは大切なことでしょう。二人でなにやら話しながら、楽しそうに仲良く遊んでいる姿を見るのは、ママにとっても至福の時です。

小さな部品の取り合いなどの小競り合いはあるでしょうが、譲り合ったり我慢したりということを覚えさせる良い機会です。二人の意志疎通がはかれるようになると、他のきょうだいや友達以上に上手に遊ぶようになるものです。

また100パーセント与えられたものからではなく、限られたものの中から何かを造り出すという作業は、創造性を養うことにもつながります。いつも遊ぶ相手がいるメリットを生かしてあげたいものです。

小さなものでそれぞれの所有欲を満たす

我慢や譲り合い、また協力して一つものを使うということを知るのも大切なことですが、だからといっていつも二人で一つや半ぶんこでは、子供たちもフラストレーション

が溜まってしまいます。そこで小さなもので二人の欲求を満たしてあげてはどうでしょう。

例えば駄菓子屋や今なら百円均一のお店で好きなものを選ばせる。それが同じものでも違うものでも、その程度ならこちらも譲歩できるかも。子供のほうもどんなに小さな物でも「自分だけのもの」という満足感は得られるはずです。時々そういう機会を持てば、「その代わりに、大きなものは二人で一緒に使おうね。」というママの願いも聞いてくれやすくなりますよね。

そうは言っても相手の物を欲しがったり、壊れた方を自分の物ではないと主張したりと争いのタネは尽きません。ママも防御策として、必ず名前や印を書き、「これは ちゃんのもの」「これは ちゃんのもの」と所有権を主張できるよう準備をしましょう。毎日の生活の中でおもちゃのためにケンカが絶えないとしたら、それは母親にとっても、ひいては子どもたちにとっても大きなストレスの原因になります。

本当に好きなものを見つけてほしい

相手と同じおもちゃをねだるのはいつも決まった子かもしれませんが。親の目から見ると「同じおもちゃをねだる」というのは、なんだか自分の意見を持たずに相手の真似ばかりしてるようで、歯がゆい思いもします。でもそれは「本当に自分の欲しい物」を見つけるための、長い旅の第一歩でもあるのでしょうか。いつの日か、相手と違う自分を意識し、「自分はこれが好き」と言えるときがくるものです。「真似しちゃダメ」などと言わずに、同じ物を欲しがる気持ちを認めてあげること大切です。(編集部)